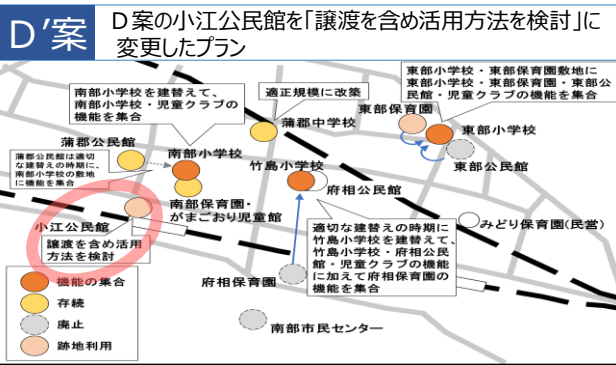
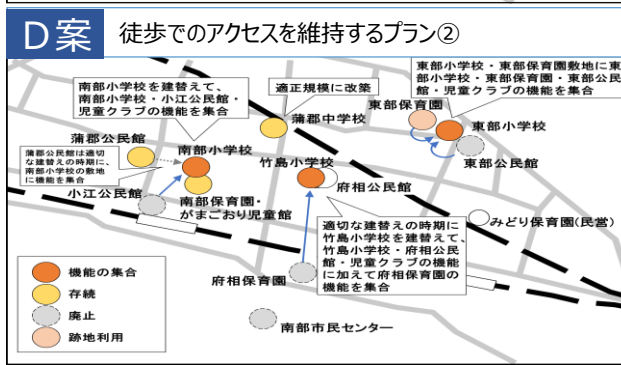
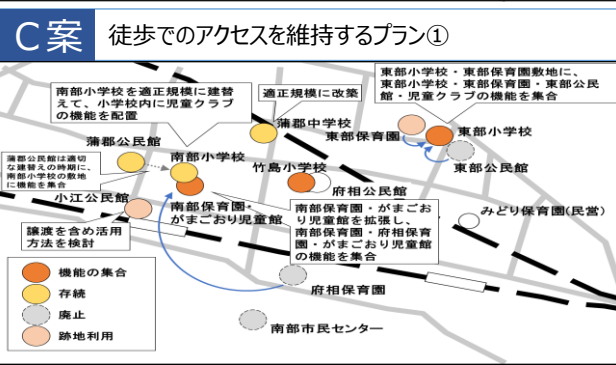
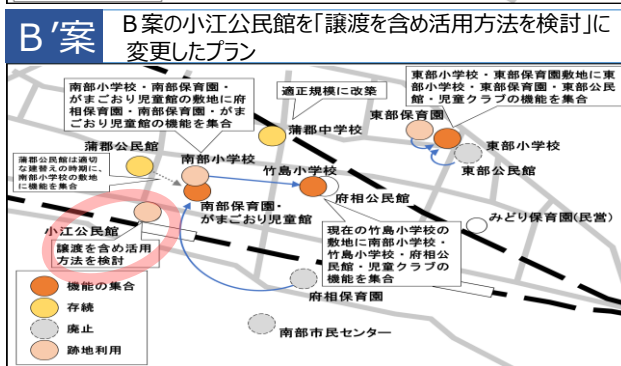
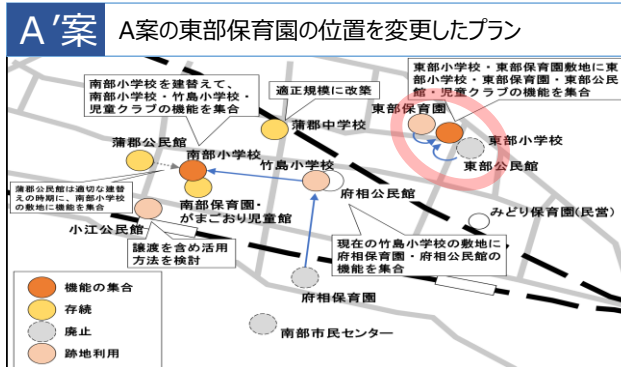
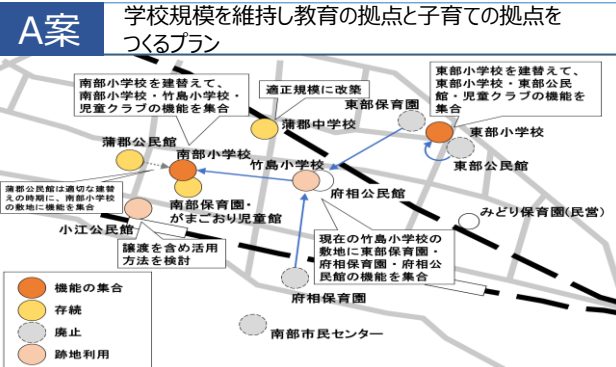


7つの再配置プラン案の絞り込みを行います。

ご意見にもとづく評価結果やワークショップでのさらなる検討を踏まえ、今後7つの再配置プラン案の絞り込みを行っていきます。



ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を踏まえて、「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- **ワークショップで検討されている内容について**
 - **蒲郡南地区のまちづくりや公共施設について**
- 下のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。
差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課
公共施設マネジメント担当
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp
TEL 0533-66-1158 / FAX 0533-66-1183

ワークショップについて、
詳しくは市ホームページをご覧ください。

<http://www.city.gamagori.lg.jp/site/management/machizukuri-kokyoshisetsu.html>



蒲郡南地区 かわら版 第4号

蒲郡南地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

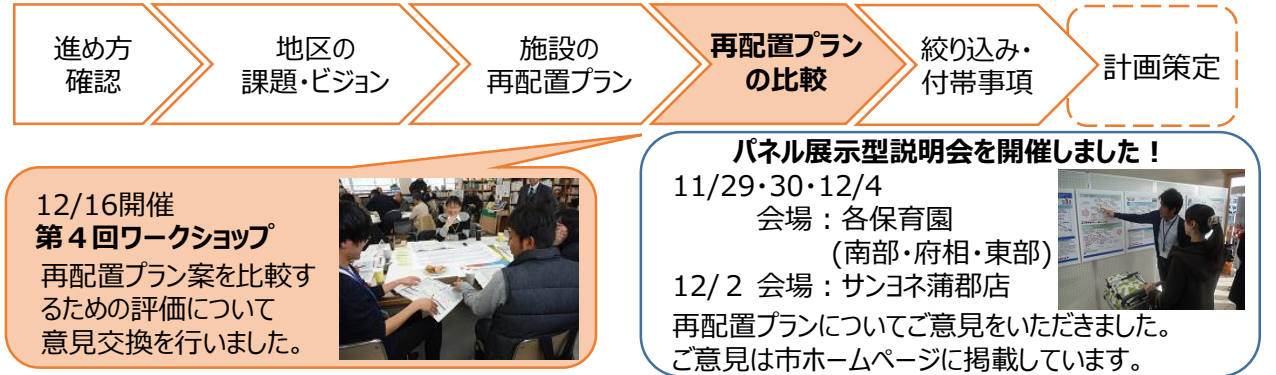
蒲郡市では、今後の人口減少・少子高齢化が進む社会情勢を見据え、公共施設の維持更新費用で将来に大きな負担を残さないため「身の丈にあった」施設保有量に適正化していく取り組みを進めています。

そこで今年度、蒲郡南地区（蒲郡中学校区）では、地区内の公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来のあり方について皆さまに考えていただく機会として「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。今回は12月16日（日）に蒲郡中学校にて行われた第4回ワークショップの様子をお伝えします。

また、ワークショップで話し合われている内容等についてご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップ参加者の皆さんと共有し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップでのご意見をはじめ、地区の皆さまのご意見を踏まえて、蒲郡南地区の将来の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」の検討を進めています。第4回ワークショップでは、再配置プラン案を比較するための評価について話し合いました。



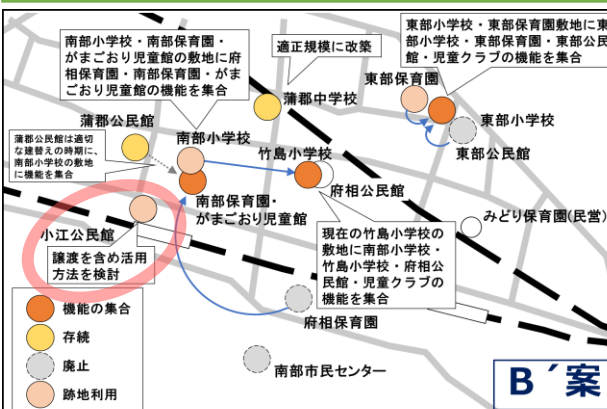
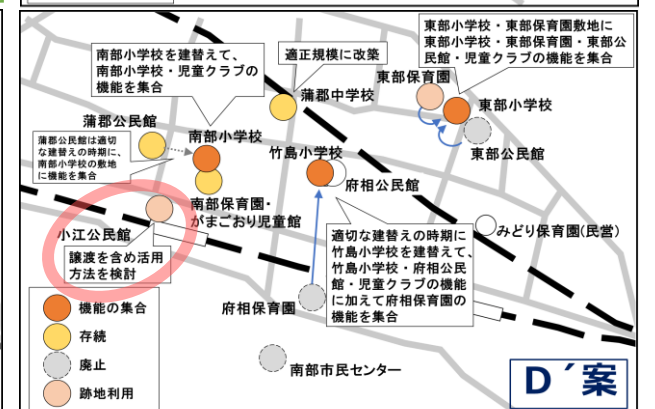
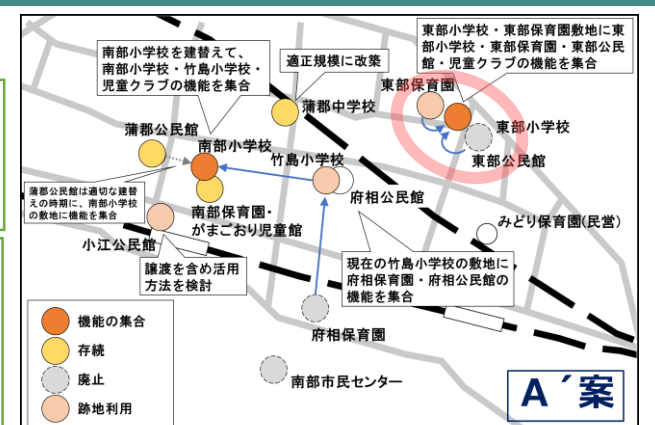
再配置プラン案を3案追加しました。

第3回ワークショップでのご意見を踏まえて、再配置プラン案を3案追加しました。

A'案：A案の東部保育園の位置を変更したプラン
蒲郡東部小学校・東部保育園の敷地に、蒲郡東部小学校と東部保育園、東部公民館の機能を集め、東部地域の拠点を作ります。

B'・D'案：B案およびD案の小江公民館を「譲渡を含めて活用方法を検討」に変更したプラン
小江公民館は、公民館機能を廃止し、建物は、地元自治会への譲渡を含め活用方法を検討します。

※全ての再配置プラン案の概要は最終ページに掲載しています。



次回ワークショップについて

日時：2月10日（日）
午後1時30分～午後4時30分
場所：蒲郡中学校 図書室
内容：施設の再配置プランの絞り込みについて

どなたでも傍聴ができます。
傍聴ご希望の方は、
右のお問い合わせ先までご連絡ください。

再配置プラン案の評価検証

第4回ワークショップでは再配置プラン案を比較するため、これまでのご意見をもとに事務局が作成した評価一覧表(案)を用いて検討を行いました。評価項目や評価方法について修正点や配慮すべき点などのご意見をいただきました。
(各再配置プラン案の概要は最終ページに掲載しています。)

評価一覧表（案）

視 点		内 容	評価項目		A 案	A'案	B 案	B'案	C 案	D 案	D'案
① 地域での活動・交流の盛り上がり		● 地域コミュニティの中心となる施設が整備されているか。 ● 世代間交流が活性化される施設配置となっているか。 ● 中高生等若い世代が集える場所は整備されているか。	ア	地域のコミュニティの中心となる施設があるか。（現在の小学校区程度の範囲に誰でも集まれ、地域の活動ができる場所があるかを評価）	○	○	○	○	○	○	○
			イ	地区住民同士や異なる世代間の交流機会は生まれやすくなったか。（施設同士の位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			ウ	中高生など若い世代が集まり、活動・交流しやすくなったか。	○	○	○	○	○	○	○
② 学校教育環境の適正化		● 適切な学校規模が維持されているか。 ● 学習環境や活動内容が充実しているか。 ● 学校の配置は適切か。	エ	適切な学校規模が維持されているか。（30年後の学校規模を国の基準にあてはめて評価）	○	○	○	○	△	△	△
			オ	小学校の学習環境や活動内容は充実しているか。	○	○	○	○	○	○	○
			カ	小学生の通学しやすさは保たれているか。（小学校の周辺年少人口で評価）	○	○	○	○	○	○	○
			キ	子ども達の地域とのつながりは強まっているか。（学校と公民館の関係で評価）※	△	△	◎	◎	○	◎	○
③ 子育てしやすい環境づくり		● 活気のある子どもや親の活動拠点はできているか。 ● 子育てしやすい環境が整備されているか。	ク	子育てに関する様々な活動がまとめて行える子育ての拠点ができているか。（小学校・保育園・児童館の位置関係で評価）	△	○	△	△	◎	◎	◎
			ケ	放課後や休日に小学生が遊ぶ場所は充実しているか。（児童館や公民館の小学校との位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			コ	保育園児や小学生を同時に送迎しやすくなったか。（保育園と児童クラブ機能の位置関係で評価）	△	○	△	△	◎	◎	◎
			サ	保育園に自動車で送迎しやすくなったか。（保育園の周辺道路環境と駐車場の確保しやすさで評価）	◎	◎	◎	◎	△	○	◎
			シ	小学生にとって児童クラブが利用しやすくなったか。（児童クラブ機能と小学校の位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
④ 高齢者のにぎわい		● 高齢者同士で活発に活動し支え合う環境は充実しているか。高齢者が地域との関わりを持ちやすいか。	ス	高齢者が活躍できる機会は増えたか。（公民館の周辺環境の充実度で評価）※	○	○	◎	○	◎	◎	
			セ	高齢者が地域との関わりを持ちやすくなったか。（公民館と他の施設の関係を評価）※	○	○	◎	◎	○	◎	◎
⑤ 安全の確保（地域防災・利用者の安全）		● 安全の確保された立地となっているか。 ● 避難所・避難場所の数や位置は適切か。 ● 機能が集合した施設の防犯対策・安全面への配慮がされているか。	ソ	津波・高潮の危険を避けられる施設の配置になっているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			タ	津波・高潮の想定浸水域に立地している施設が速やかに移転できる配置になっているか。	○	○	◎	◎	◎	○	○
			チ	災害時の避難所・避難場所は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○
			ツ	利用者の防犯面での安全は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○
⑥ 利便性の確保		● 1カ所で多様な活動が行えるようになったか。 ● 各所から通いやすい施設配置となっているか。 ● 駐車スペースは十分確保されているか。	テ	1カ所で多様な活動が行えるようになったか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			ト	公民館に高齢者が徒歩で利用しやすい配置になっているか。	○	○	○	○	○	○	○
			ナ	公民館に駐車場は十分に確保されるか。	◎	◎	◎	○	○	○	○
⑦ 将来負担の縮減		● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。	LCC（ライフサイクルコスト）試算における50年間の縮減額（単位：百万円）		5,136	3,716	3,799	4,264	2,153	1,388	1,871
				◎の個数	7	7	11	9	8	10	10
				○の個数	11	13	8	10	11	10	10
				△の個数	3	1	2	2	2	1	1

視点①～⑥については、評価項目ごとに（◎：現状より向上、○：現状維持もしくは一長一短がある、△：現状より低下）の3段階で評価しました。視点⑦については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額にもとづき評価しました。
なお、※印の項目（キ・ス・セ）は、東部地域に限定して検証すると、全ての案が同条件で、「現状より向上」となるため、東部地域以外の施設を対象として評価しました。

以下は、ワークショップでいただいたご意見の抜粋です。

① 地域での活動・交流の盛り上がり

- 学校教育環境の適正化の視点で、【キ】の「子ども達の地域とのつながり」を評価する項目があるが、地域での活動・交流の盛り上がりの視点で評価することが適切だと思う。

② 学校教育環境の適正化

- 【エ】適正な学校規模についての国の基準(12学級以上18学級以下)も変わっていく可能性もあるため、蒲都市としての適正な規模についての考え方を持つ必要がある。
- 【エ】竹島小学校と南部小学校については、適正な学校規模を考えると、どちらかの敷地に機能を集合するとよいと思うが、通学距離や避難場所までの距離を考慮すると、竹島小学校に機能を集合したほうが全体の配置バランスがよいだろう。
- 【カ】南部小学校周辺は、道路も狭く、歩道もないなど、交通安全の視点で「通学のしやすさ」に問題があるため、A案・A'案は評価を「○」から「△」にするのが適当だ。
- 【カ】小学校が集合する場合、通学距離で不便になる児童がいる。国の基準の通学距離では問題ないため評価を「○」としているが、違和感がある。
- 公共施設の再編については蒲郡南地区だけで考えるのではなく、もう少し広域で考える必要がある。例えば、対象地域外ではあるが蒲郡中学校と中部中学校の統合など幅広く検討をするべきだと思う。

③ 子育てしやすい環境づくり

- 【ク】の項目の「子育ての拠点」という表現がわかりにくい。理解しやすい表現にして欲しい。
- 【ク】小学校、保育園、児童館の機能が集合していると、子育てしやすく便利だと思う。子供たちにとっても同じ場所で過ごせる方が安心感があるだろう。
- 【ク】小学校と保育園の距離を近くすること以上に、質の高い保育環境を提供することの方が重要である。
- 【コ】現状でも保育園と児童クラブがそれほど遠いわけではないので、より近い位置関係にすることを評価する項目は、それほど重要ではないのでは。
- 【サ】南部保育園周辺は道路が狭く、歩道がなかったり、一方通行も多い。周辺道路環境の視点で評価すると、A案、A'案は「◎」ではなく、「○」が「△」にするのが妥当だと思う。

④ 高齢者のにぎわい

- 【ス】公民館の利用者はほとんどが高齢者である。今後、さらに高齢化が進めば、公民館を利用する高齢者が増加傾向と予想できるため、公民館を減らしてよいのか疑問である。
- 【ス】公民館は地域組織が指定管理者となって運営しているため、利用頻度や活動内容にばらつきがある。再編を機に施設・設備の質を高めるとともに、より良いサービスを提供することで、有効利用を促進すべきだ。
- 【セ】公民館と他施設との位置関係で「高齢者が地域と関わりを持ちやすくなった」ということにはならないので、立地条件のみで評価するのは適切ではないのではないか。

⑤ 安全の確保（地域防災・利用者の安全）

- 【タ】府相保育園の移転は早急に進めることであり、第一に優先するべきことだと考えている。(津波・高潮浸水想定域であるため。)その視点で考えると、早期に移転可能なB案、B'案、C案（南部小学校周辺へ集合）にするしかない。
- 【チ】小学校の統合によって避難所・避難場所が十分に確保できない地域も出てくるのではないか。具体的な場所を想定しながら検討する必要がある。
- 【チ】災害時は、指定の小・中学校に避難しなくても、その時に近い施設等どこに逃げてもよいことになっている。そのため、何らかの避難場所が近隣に確保されているかという視点で評価できていれば良い。

⑥ 利便性の確保

- 【ト】高齢者が歩いていける場所でコミュニティ機能が必要になってくるため、集会所の有効活用を考えると、公民館との役割分担を見直す必要があるのではないか。
- 【ナ】評価項目の「公民館に駐車場は十分確保されるか」で、学校跡地の活用で駐車場を確保できるであろう、A案・A'案・B案を「◎」にしているが、全ての公民館に十分に確保される場合のみを「◎」にすべきではないか。

⑦ 将来負担（コスト）の縮減

- コスト面で考えると、小学校・保育園・児童館の機能が集合されていたり、小学校を統合した方がメリットがあるだろう。
- 児童数が減少することが予想され、また、LCC（ライフサイクルコスト）の縮減効果からも、C案とD案は、妥当な案ではないのでは。
- 小学校の統合案には劣るもののC案・D案でも、将来負担は縮減されている。30年後も12クラスを維持できる見込みとなっているなかで安易に統合するのではなく、統合しない案も検討すべきだ。